

第9回地域インフラ群再生戦略マネジメント計画策定手法検討会

令和7年12月23日

【森下公共事業企画調整課長】 それでは、定刻となりましたので、ただいまより第9回地域インフラ群再生戦略マネジメント計画策定手法検討会を開催いたします。本日の進行を務めさせていただきます、総合政策局公共事業企画調整室の森下と申します。どうぞよろしくお願いいたします。それでは、検討会の開催にあたりまして、大臣官房審議官の小島より、一言申し上げます。

【小島官房審議官】 おはようございます。家田先生はじめですね、皆様にはご多忙の中、地域インフラ群再生戦略マネジメント計画策定手法検討会第9回というところで、ご出席いただきまして本当にありがとうございます。委員の先生方には令和5年の8月に検討会を作りまして以降、ご熱心にご議論いただきまして、おかげさまでいまお配りさせていただいております群マネの手引きV e r . 1 を10月14日に公表させていただくことができました。大変好評をいただいているところでございます。また、本日から新たに植野先生、貝戸先生、松永先生という御三方にも委員に加わっていただいて、より充実した議論をお願いするということでございます。

インフラメンテナンスをめぐるものではですね、今年の1月に発生した八潮市の下水道に起因する事故を受けた有識者委員会では家田座長に委員長を務めていただいておりますけども、こちらの委員会の方から12月1日に第三次提言を金子国土交通大臣にいただいております。その中では下水道のみならず、インフラ全般のマネジメントのあり方というところで大変骨太な方向性をまとめていただいております。そのご提言の中でもですね、今回ここで取り上げられております群マネ、技術系職員に限られている中で複数の自治体や複数分野のインフラを群として捉えてマネジメントするという群マネについて推進していくべきというようなご提言をいただいておりますし、また、技術系職員の方が群となって広域的に連携する、いわゆる人の群マネについても積極的にやっていくべしというようなこともいただいております。本日の検討会はですね、令和5年の12月にモデル地域に選定されました一つでございます和歌山県の方にもご出席いただきまして、この間の検討状況の中間報告をいただくということにしてございまして、これに関しましても、また後程委員の皆様からご助言いただければと思っております。更に本日はデータ分析等の面からサポートいただいております長井先生にも後程話題提供していただくということになってございます。ありがとうございます。

群マネも地域への浸透それから実践が促進されますようにより一層検討を深めてですね、今後の手引きの改定等ですね、さらに繋げていきたいと考えているところでございます。委員の皆様にはですね、本日の様々な視点からご意見、ご指導賜りますようお願い申し上げます。私の冒頭の挨拶とさせていただきます。本日もどうぞ、よろしくお願いいたします。

【森下公共事業企画調整課長】小島審議官、ありがとうございました。次に本計画策定手法検討会の座長をお務めいただいております家田先生より、ご挨拶をお願いできればと思います。

【家田委員】改めましておはようございます。リモートの方もおはようございます。どうぞよろしく申し上げます。ここまでのところ、若干の感想めいた、反省めいたところを申し上げたいと思うのですが、今ご紹介ありましたように1月28日に八潮の事故が起こって、私は専門でも何でもないにも関わらず、その勉強をさせて頂く機会をいただいて、その報告を大臣にお渡しするという機会もいただきました。またその間、色んなマスコミの方と話しをする機会も得た次第でございます。八潮の事故の前からこの群マネということでやっておりますし、そのまた前は笹子ということでやってきたのですが、その結果として国民会議というものも作ったのだけれども、ここまで十数年やってきて、やっぱり思うのは、まだまだ我々は分かっていないこともありそうだとということ、分かっていないということは技術的に分かっていないということではなくて、現場の実態というところや悩みはどこにあるかということとかね、問題の所在はなんなのかっていうその本質を十分掴み切れていない、かもしれないと思いながらやらなきゃいけないということを痛感しますね。というのは、この群マネの仕事に参加させていただく中で、現場の人たちと何回もお話しをしたり、あるいはそらゑの人たちのWEBですね、ぼやきを聞くということもいっぱいありましたけどね、いやこれ知らなかったなということがいっぱいあるわけですよ。また八潮でもですね、いやそうだったのか、というところがいっぱいあると。だから知ったような顔して僕もこんなに喋っちゃいけないなと思いつつも、今分かっているところで全力を尽くさざるを得ない、しかしまだまだ足りないところがあるに違いないっていうのを思っているところでございます。

この群マネについてもそういうところで、ある種的手段としてこういうことを取り入れることで、より良くなるんじゃないかという仮説でやってるのですが、それは手段で合って、根本はその理念であるとか、戦略であるとか、根本問題は何なのかっていうところを忘れてはいけないなという風に思います。お互いにこの群マネについては、実施手法検討会を小澤先生が座長の下やっていただいているというところがあるので、細かな技法はそちらで丁寧に考えていただけたらと思いますので、むしろこちらの計画について言えば、根本は何なのかなとかというところに既に想いを馳せるというところ、そしてまだ議論していない、触っていないところは何なのかっていうところを置き忘れないように注意しながらやらなきゃいけないなと思っております。

今回から、新しい委員にも参加していただいて、より充実した体制を取っていただけるようになって、私としても大変心強い限りでございます。これからまたどうぞ、よろしく願いいたします。

【森下公共事業企画調整課長】家田先生、ありがとうございました。続きまして、今お話しいただきましたが、本日の検討会から、新たに3名の委員の先生方にご参加いただ

いております。ご挨拶を恐縮ですが、一言ずついただけたらと思っております。まずは植野委員からお願いいたします。

【植野委員】富山市政策アドバイザーの植野と申します。本日から委員会にも参加させていただきますのでよろしくお願いいたします。

【森下公共事業企画調整課長】ありがとうございます。続いて、貝戸委員。

【貝戸委員】大阪大学の貝戸といいます。どうぞよろしくお願いいたします。私は群マネ関係はモデル地域の大阪泉州地域であったり、それから島根県益田市さんと連携して、これからやらせていただくつもりです。また、来年早々には三重県の明和町さんと包括連携をして群マネを推進していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【森下公共事業企画調整課長】ありがとうございます。松永委員におかれましては遅れてのご出席ということですので、到着されましたらまたご挨拶いただきたいと思います。

それでは、議事に先立ちまして、検討会及び議事の公開について確認をさせていただきます。今回は複雑ですけれども、議事が(1)～(4)までございますが、(1)と(3)が公開、間挟みまして(2)と(4)が非公開という形で、公開と非公開が入れ替わりますので、その都度事務局の方でご案内をさせていただきますと思います。それでは冒頭のカメラ取りはここまでとさせていただきますので、報道関係者の方々は御退室をお願いいたします。

(報道関係者退室)

【森下公共事業企画調整課長】それでは、以降の進行は座長に進行お願いできればと思います。よろしくお願いいたします。

【家田委員】それではまずは(1)の本日議論したいという事項、これについて資料1でご説明をお願いいたします。

【柘津企画官】公共事業企画調整課 柘津でございます。よろしくお願いいたします。こちらから2点ご説明させていただきます。ではまず資料1をご覧ください。既に触れていただいておりますが、10月14日にこちらの、群マネの手引きを公表させていただきました。委員の皆さまにはたくさんのアドバイスをいただきましてありがとうございました。こちらにつきまして、今後、様々なところで実装に向けた展開をしていきたいと考えております。

2ページ、群マネの手引きはご覧のような形で色々な方に、特に小規模自治体の、例えば土木ではない方も含めて読んでいただけるような形での工夫をさせていただきました。現在はVer.1とさせていただきますので、次のVer.2に向けて様々なアドバイスいただければという風に考えております。

3ページでございますけれども、ありがたいことに、この間、2か月ぐらいでございますが、公表ベースだけで申し上げても毎週毎日のようにお声がけをいただいております。

す。クローズの会議も合わせると、さらにたくさんあり、土木学会でもさせていただきましたし、そらゑの方とも13番にあります通り、オンラインの群マネの手引きを味わってみる会というのをやっていただいております、今日のこの後、インフラメンテナンス国民会議九州フォーラムで私がこの後オンラインでセミナーを実施します。また、長崎市でも群マネの勉強会があったりします。そんなような感じで、ありがたく色々な期待をいただいて、例えば次のページでございますけれども、大館市では堀田先生にもご出席の下、やらせていただきましたし、ビックサイトで開催された社会インフラテックでも植野委員にも出席の下、群マネのセッションさせていただきました。

また、各自治体さんからもお声かけいただいて、富山県さんの事例も出させていただきますが、こういった形で勉強会もさせていただきました。先ほどちょっと申し上げましたそらゑさんの味わってみる会、ということで、これ実は盛り上がりまして、2時間半に実施したというところで、こういった形で色々なところでご興味を持っていただいて、今後実装できればという風に考えております。そういった空気感の中ですね、次に向けてといったことで、議論を再開していきたいと思っております。

こちらは8月の検討会でお示しさせていただいた今後の進め方案でございます。本日、計画検討会のテーマ案としてお示しさせていただきました見える化、それから人の群マネで、この人の群マネについては別途久田先生に委員長をしていただいて、ご指導いただいておりますハンズオンの検討会をご紹介させていただきながら議論できればと考えております。3番目の広域連携による計画策定方法の検討ということで、本日は和歌山県さんにお越しいただいております。ありがとうございます。和歌山県さんと市町さんが連携した橋梁の集約撤去、計画の策定のプレゼンと、長井先生からそれに資する見える化の開発についてご報告いただくことを中心に考えてございます。

今後の予定といたしまして、6ページに説明させていただいておりますが、Ver.2に向けて、本日の中間報告とは別に先週12月18日に小澤先生が座長を務める実施検討会でも中間報告ということで7自治体さんにプレゼンをいただいております、本日は和歌山県さんからもプレゼンいただくということになります。

7ページの全体像として取り上げておりますが、11のモデル地域について、最終報告も含めて成果を仕上げたいと考えておりますので、ご指導いただきますよう、お願いいたします。8ページ、最後でございますが、本日、そういったことも含めまして、モデル地域の取り組みを後押しするための検討状況、相談でご助言を賜りたいと考えてございます。

また、今後のVer.2への更新に向けてご質問ご意見いただければと考えておりますので、何卒よろしくお願いたします。事務局からは以上でございます。

【家田委員】はい、どうもありがとうございました。ご質問やご意見ありましたらお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。では、1つ目の議題は大体こういうことで進めるということにいたしましょう。それでは、次の議事に移りたいと思っておりますが、議事

(2) は非公開の議事となります。事務局からご案内をお願いいたします。

【森下公共事業企画調整課長】はい。事務局でございます。議事(2)は非公開の議事となりますので、マスコミ並びに一般の傍聴参加の方はご退出をお願いしたいと思います。公開議事である議事(3)は11時目途で再開予定でございます。また参加いただければと思います。

—— 公開議事了 ——

【森下公共事業企画調整課長】事務局でございます。2、3は公開の議事でございますので、再度入室の準備をいたします。少々お待ちください。

松永委員がこちら参加されてますので、すいません、ご挨拶を頂戴できればと思います。よろしく申し上げます。

【松永委員】皆さん、おはようございます。横浜国立大学豊穡な社会研究センター元気のインフラ研究所の所長をしております、松永でございます。合わせて、一般社団法人行政エンジニア支援機構の会長を仰せつかっております。前半ですね、非常に貴重なお話を聞くことができ、非常に緊張感が高まっております。積極的に発言していきたいんですが、今日はですね、挙手機能が無効になっておりますので、先ほども連打してみたんですが、また次回以降ですね、しっかりと発言できるように準備していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

【森下公共事業企画調整課長】ありがとうございます。機能回復できるかチャレンジをこちらでもいたします。では、ここからハンズオン支援事業検討会における検討状況のご報告をさせていただきたいと思っております。

【柘津企画官】資料4を簡潔にご説明させていただきます。こちら、いわゆる人の群マネ推進とでも捉えていただければと思います。元々これ、BRIDGEという内閣府からの予算をいただきまして、3年計画で、当時新技術導入に関するハンズオン支援事業でやってまいりました。今となつては、それが群マネですとか包括を含めた、人の群マネといった施策に派生していると理解しております。久田先生、岩城先生、植野先生、長井先生にご指導いただきまして、こういった専門家の派遣といったことを13自治体で試行しております。こちらのノウハウも含めてですね、今後人の群マネといったものを推進していく上で、我々もこの勢いに乗りまして、姉妹版も作ろうかなということで、人の群マネ育成本というのを作ろうかなという風に考えておりますので。まずそのちょっと告知といった形でとりあえず進めさせていただければと思います。本日はそのアドバイスも含めて、いただければと思います。

現時点で告知ということでこんなラインナップで。外から支援する側の気づき、それから内、すなわち市町村さんから見てどういったニーズを求めているのかというのをどう発信するかといった、外と内両方あるかと思いますが、それをですね、このハンズオン

支援事業の気付きから整理したいという風に考えています。

4 ページにですね、これも原則ということで、皆さんが読みやすいようにということでまたコンテンツを作っていきたいと思っています。

5 ページにですね、この取り組みが今年度で一旦終わりになるので、今後ですね、PFI とか PPP でもですね、このサポーター制度というものが、後ろに参考でつけておりますが、今後、この群マネサポーターといったものを検討してみたいと。それを今後認定しながら、いわゆる人材バンクのようなものを蓄積しながら、市町村さんにですね、こう支援体制を人の群マネとして構築したいという風に考えているということで、こういった検討を別途させていただいてることをまずご紹介させていただきながらですね、この人の群マネについてアドバイスいただければという風に考えてます。

6 ページ以降は参考ですので割愛させていただきます。以上でございます。

【家田座長】 はい、ありがとうございます。群マネっていうのは、その官庁側の群マネと、民間事業者側の群マネと、それからもう1つ、人の群マネってことで柱になってるんですけども。これについての1歩進みつつあるというご紹介と、これからどうしたらいいですかねっていうところだと思います。

逐次ご発言いただきたいと思います。最初に松永さんにご発言を。まず皮切りをお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。特にそらゑの会長をおやりになってる視点からのご発言賜りたいと思います。

【松永委員】 ありがとうございます。今、家田先生からもおっしゃられたように、今、我々の分野のマネジメントといえば、人、物、金、それから情報ということになりますけれども、その中で、特に我々は人に注目した活動を行う団体を立ち上げてございます。そのきっかけとなったのは、やはり橋梁点検が始まったり、あるいは技術系公務員が減っていく中で、非常に精神的にですね、追い込まれる自治体職員が多くて、やっぱりお休みになられたり、あるいは場合によっては退職に追い込まれるっていうことも非常に増えてございます。特に、九州の特徴というよりは、地方部ではかなり顕著な傾向なのかなと考えております。それをですね、人がつながることによって技術的なケアを行いつつ、いわゆる心のケアも含めてですね、行っていく必要があるんだろうと思っています。これから専門技術やデジタル技術であったり、場合によってはフィジカルの技術も含めて高度化していく中で、さらに現場の自治体の技術系公務員の置かれている環境っていうのは悪くなっていく可能性があると考えております。

こういったところにもしっかりと光を当てながら我々活動を進めていきたいと思っておりますし、こういったハンズオン事業の中でですね、しっかり人の連携を支援していくサポート、多様なサポートが生まれてくることは大歓迎ですので、このあたりについてもしっかりと取り組んでいきたいと思っています。以上です。

【家田座長】 松永さん、ちょっと追加でコメントいただきたいんですが、今、柁津さんからご紹介があった話は、アドバイザーを派遣するようなんですね。割と制度として体

系的にやっぺこうっていう、これ1つのね、重要な方法だと思っただけども。もう一方で、松永さんが努力されてきたようなのは、誰かが派遣されてくるという感覚よりも、横に繋がっていくというラウンドテーブル的な横のつながり的な感覚がありますよね。この辺と、今、柁津さんからのご紹介っていうのをうまく整合させてくのか、あるいは並列させるのか、一体なのか、その辺についてのご意見はどうでしょうか。

【松永委員】はい、ありがとうございます。

まずは、並列は必ず必要だと思います。というのもですね、実は我々のような活動っていうのはかなり積極的な人しか手を挙げてこないんですよ。あるいは非常に追い込まれて、もうほんとに言葉を選ばずに言うと、もう精神疾患手前ぐらいに追い込まれて駆け込み寺になっていたりします。そういったところの特殊な人たちの集合と、やっぱり技術系公務員全体を支援していく人の束の部分とは、やはりまずは切り分けてスタートを切るのが望ましいと考えています。

ですから、先ほど柁津さんからご紹介があったような、国が準備した制度としての人の束の作り方っていうのは当然王道として必要な中で、我々のようなそれでも取りこぼされてしまうような人たちにしっかりとお互いが繋がったり、あるいは逆に突き抜けてもっともっとやりたいよっていうやる気満々の人たちが集うような場、こういったものも必要なんだろうと思っぺます。

一般社団法人行政エンジニア支援機構は、この突き抜けた人たちと、どちらかというとりこぼされそうになった人たち、ここを今はケアする団体ということですので、真ん中を保管する意味で価値があると考えております。以上です。

【家田座長】ありがとうございます。大変私は頭の中が整理できました。

はい。他の方、どうぞご発言ください。

【植野委員】よろしいですか。

【家田座長】どうぞ、植野さん。

【植野委員】人の群マネというのは非常に重要なテーマでありまして、実際には群マネでもここから入っていくのが1番やりやすいんじゃないかなと思います。垂直連携とか水平連携とか色々手法はありますが、なかなかまとまらなかったりですね。実際動かなかったりしますので、人の群マネっていうのは非常に重要だと思います。

人の群マネだけであれば、ちょっと遠方でも構成できますので、それはいいんじゃないかと。事例を挙げますと、先日ちょっと前橋市といわき市と富山市の3市で集まってお話をしたんですけど。これ人の群マネだねっていう話をしたんですけども、そういうものをこれから形作っていければ、悩み事は結構若手職員同士で似たような悩みがありますんで、それが解決できるんじゃないかなと思います。

アドバイザー制度はじっくり考えませんとちょっとやっぱりかなり難しいのかなと思っぺておりまして。制度的には作っていただいた方が自治体としてはありがたいですけども、じゃあ誰が管理するのかっていうところがですね、管理者の負担が結構大変なんじ

やないかなと。祢津さんがやるにしては祢津さんが大変なんじゃないかなと思いますので、その辺どうしていかってというのを議論が必要なのかなと思います。

はい、以上です。

【家田座長】これ管理するっていうか、全体をカバーするのは本省でやるってイメージなんですか、整備局でやるんですか。

【祢津企画官】事務局機能、相談窓口というのが各地方整備局さんにも今ございますので。それをですね、しっかり強化するような形を取りたいなとは思っております。

【家田座長】なるほどなるほど。はい、ありがとうございます。

他にはいかがでしょうか。岩城先生、どうぞ。

【岩城委員】私も活動委員として参加してずっと感じていたことは、やっぱり取り組みを見てると、アドバイザーとか、アドバイスっていう言葉そのものが強いなと。これを必要としてるところ、手を差し伸べてもらいたいところって、技術も何もないところにアドバイス、頭ごなしにこうやられても消化できないですね。

私はそこで、ケアマネとか、そういう言葉を使って。そこには、サポーターとかですね、寄り添うとか伴走するっていう、そういう言葉をここにも散りばめておられますけれども、やはり必要のところっていうのは、アドバイスを求めているというよりも、一緒にこう考えてもらったりとか、というような立場でこれを進めていく。アドバイスってのは、もうかなり実力がある人にガンガン言えば、そっからさらに伸びるっていう感じだと思いますので。その辺の使い分けが必要かなと思ったということです。

【家田委員】なるほどね。サポーターだとちょっとまたニュアンスが違うわけで。

【岩城委員】なので、私はケアマネという言葉。

【家田座長】群マネ介護とかそういう感じ。介護だね、これね。インフラマネジメント介護者みたいな、そんなイメージでいた方がいいんじゃないかってことですね。

【岩城委員】はい。

【家田委員】ありがとうございます。足立先生、どうですか。

【足立委員】ありがとうございます。今回改めて、突き抜けた人とか、あと取りこぼされた人っていう言葉があったかと思います。そうなりますと、逆にですね、せっかく突き抜けた人をどう生かすか、そういったような問題点などはどうなったのか。いわゆる育てるにしましても、せっかく突き抜けた人はいらっしゃるのであれば、その方を生かすっていうのも重要ですし、突き抜けた人に依存せずに取りこぼされた人を切り捨てないっていう、そういったような構造、こういったことも必要なのかなと思っておりました。

ここで言いますのは、人を育てるっていうその視点はもちろんなんですけど、じゃ、育てた後の組織的な体制ですね、多分組織の問題が、結果として今追い詰められるような人とか、もしくはせっかく突き抜けた、突抜けてるにもかかわらずそれ生かし切れていない、そういったような問題がある中で今に至ってるかと思えます。さらにですね、

組織の再編ですね。一定ですね、組織自体の見直しっていうのもやはり必要なのかなと思って聞いておりました。以上です。

【家田座長】はい、ありがとうございます。はい、久田先生、どうぞ。

【久田委員】資料の中で、このハンズオン検討会の方で、委員長の立場でですね、色々検討進めさせていただきまして、祢津さんとか岩舘さんとも事業を通じて成功事例もあったんですけど、やっぱりもうちょっと工夫が必要だったよねっていう反省点も相当蓄積されていらっしゃると思います。人の群マネって言って、人っていう言葉にクローズアップされるので、ついつい人を見がちですけども、人だけじゃなくてですね、やっぱり制度面とか、あと、なんだろう、内外で言うと、ご本人も、せっかく育てようと思ったのに、2、3年経って担当変わっちゃって育てきれなかったみたいな人事制度、そういうなんか口惜しさなんかもあったりして。そういう既存制度の中でどうチューニング、フィッティングさせていくかっていうのも重要な反省点のような気がしました。

あと、さっき家田先生がおっしゃったそのアドバイザーについては、やっぱりこんなアドバイザー、アドバイスをいただきたいんだけど、そういうアドバイスをしてくれる人じゃなかった的なミスマッチとかですね、そういったことも十分あり得たので、それはお互い不幸だよねみたいな話も出てます。

松永さんとか十分ご経験されてると思いますけど、突き抜けた方が、その職場で、本当に報われてるかっていう。突き抜けちゃってるから、浮いてるっていうことも多分あるだろうと。それも不幸だよねっていうのもありますので、それも全部ひっくるめて、できればいろんな角度から、育成本の方に、その辺のノウハウをできれば注入していただくといいんだろうなと思いつつ、今やっています。

【家田座長】はい、ありがとうございます。小林先生の手が上がりました。どうぞご発言をお願いします。

【小林委員】今、久田委員がおっしゃったのと同じような意見なんですが、群マネを進めていくにあたって、やっぱり人のマネジメントいうかね、それも同時にこう人材のマネジメントも必要になってくると。2つがお互いにリンクし合っている。

だから、人材だけ独立して進めてもという懸念事項はあります。例えばマネジメントをやる時で、現場でいろいろ苦勞されてる。群マネするにあたって、そこで本当に苦勞されてる方々がたくさん悩まれてると思うんで。そういう方々のネットワークというのか、そういうお話も必要になってくるだろうし。だから、マネジメントの内容に応じてハンズオンの仕方というのも多様に出てくるように思いました。以上です。

【家田座長】はい、ありがとうございます。最後、まとめて祢津さんからまた反応してもらおうと思いますけども、僕も1つ2つ申し上げると、この群マネってすべきは。人の群マネってすべきは、この担い手の人たちの群マネっていう面があって、それはね、松永さんたちやってんのもそうだし、それからこういう割と体系的にやろうねっていうのもいいと思うんですけど、もう1つの、人の群マネで大事なものは、その首長さんたち、

知事さんたちの群マネ、人の群マネで、その仕組みが、インフラメンテナンス市区町村長会議を作ったんだけど、そういう機能を果たせてるだろうか。市長さんたちがその地区の中で十分議論をするようなものになってるだろうか、イベントに出してないかというようなところは、ちょっと検討事項だと1つ思います。

もう1つはですね、群マネをやってくださってるところが、11か所ですか、やってんだけど、おそらくもうちょっと広げてもいいよねって意見もある中で、けど隣の市とはなんか知らねえけどあんまりコミュニケーション良くないよねとか、そういうような事情で広がれないというようなことは時々聞くんですけどね。そういうところをブレイクスルーするのは、むしろゲリラ的人の群マネをやってるとやりやすくなるって面かもしれないし、その辺どうしたらいいのか、ちょっと、別に答え持ってるわけじゃないんですが、ちょっと論点としてね、柘津さんたちどう考えてるか、ちょっと聞いてみたいなと思いましたね。

他にいかがですか。よろしいですか。じゃあ、大体意見は出尽くしたと思うんで、柘津さんから。

【柘津企画官】ありがとうございます。今、我々、組織的なハンズオンでですね、松永さんが並列で、と言っていてありがとうございます。作っていきたくて考えておりますけれども。そらゑさんのような方と連携しながら、特にですね、これ非常に大事だと考えておりますのは、今このモデル自治体でも、13自治体ありますけど、手を挙げていただいている自治体さんでございまして。おそらく手をあげていない自治体さんに、まず我々、インフラメンテナンスレポートまで作るかって申し上げましたけど、まず見える化をしてプッシュ型で支援していくといったことが必要かなという風に考えておりますので、特にですね、そういった自治体さんも含めてですね、プッシュ型の支援ができるようなことも含めて事務局機能といった形で考えていきたいなという風に考えていますので、またアドバイスをいただければなという風に考えております。今サポーターとさせていただいてますが醸成の仕方については命名も含めてアドバイスいただければと思います。

家田先生からもございましたけれども、このマッチングのところで、やっぱり事前のニーズ把握が非常に大事だといったことがこの3年間での大きな、そういう意味では反省といったことも含めてあったと思いますので、自治体さんからのニーズがどのような形なのかといったところをひっかけられることが大事だなと捉えております。プッシュ型については尚更のこと大事かなという風に考えてございます。この辺をですね、我々まずは国が地方整備局と連携しながら、体制を整えながらやっていきたいと思っておりますし、家田先生からいただきましたけど、インフラメンテナンス市区町村長会議も最終的に強化できるような形でやっていきたいという風に考えております。

これは多岐に渡りますけれども、またご指導いただければと思います。

以上です。

【家田委員】はい、ありがとうございました。

それじゃあ、あともう1件議事が残ってるんで、先に進みたいと思います。また今度非公開になるんで手続きをお願いします。

【森下公共事業企画調整課長】それではこれからまた非公開の議事になりますので退出をお願いします。

―― 公開議事了 ――